

ようこそ畑へ

2010年8月23日(月)・26日(木)

最近、スコップで畑に排水の溝を掘ったり、土の中の状態を調べたりしています。きっかけは、7月末にナチュラル・ハーモニーの河名秀郎さんが畑に来てくださり、伊達家の自然栽培の今後の課題について、アドバイスをいただいたことです。

いただいたアドバイスの一つが、今年、葉物野菜やトマトの生育がよくない原因の一つは畑の水はけの悪さではないか、ということでした。伊達家の畑の多くは元々水田で、水田は土の表面から25センチから30センチくらいのところに水が抜けにくいように固めた層があり、田んぼを畑として使う場合、この層によって水はけが悪くなり、雨が多いと水がたまって作物の根が傷んでしまうとのことで、対策としては、排水の溝を掘ることと、固めた層を崩すことが必要とのことです。

早速、特に水はけの悪い畑で、幅30センチ、深さ30センチ、長さ20メートルくらいの溝を3本掘ってみました。すると深さ30センチくらいのところに水が抜けにくいように固めた層があり、しかも、その少し上のところの土が変色して、硬く、臭いのを発見しました。本やインターネットで調べると、過去に投入された肥料や農薬、未熟な有機物が原因のようです。

作物の根の気持ちになって考えてみると、根を伸ばしていくてこの変色して硬く臭い層に突き当たると、いやだうなあと思います。自然栽培を極めていくには、これを改善していくことが必要で、そのために、この層をスコップなどで崩した上で、麦類や牧草など肥料を吸う力の強い作物を植えて、土の深いところをきれいにしていかなくてはなりません。

全面積を、一年で取り組むことはできないので、何年かけて、少しづつ取り組んでいくことになります。これまでも、畑や野菜に向き合ってきたつもりですが、さらにもっと土の深いところに向き合い、同時にそれは畑の過去の歴史と向き合っていくことでもあり

ます。長い道のりになるかもしれません、地道に取り組んでいくことを思います。

何事も、起こる現象と向き合い、深く掘り下げて急所を踏まえて地道に取り組んで行くことが大切なのだと、ちょっとした人生訓を得たような気もしています。

伊達家の食卓

【ズッキーニ】(自家採種)

あたたかい昆布だし汁の中に、サイコロ状に切ったズッキーニをひたしておき、冷めたころいただきます。

食べやすく切ったズッキーニをゆでて、サラダにいれます。

【ミニトマト】(自家採種)

雨が多く、割れたり、腐ってしまったものが多かったミニトマトですが、排水の溝を掘り、風通しを良くしたところ、タイミングよく晴天が続き、かなりたくさんの実をつけてくれました。ただ、少し皮が硬いので、口に残ってしまうかもしれません。

【きたあかり】(自家採種)

少し早めですが、いも掘りを始めました。まずは、掘ってすぐでも甘みがあっておいしい「きたあかり」をお届けします

【きゅうり】(自家採種)

このキュウリを丸かじりすると体のクールダウンができるとの声をいただきました。切った時の香の良さも楽しんでください。